

日本台湾交流協会主催 日本語教育研修会
2017年8月19日(土)@高雄
8月20日(日)@台北

ピア・リーディング入門

—協働の学びの場のデザインと教師の役割—

早稲田大学大学院日本語教育研究科
館岡洋子

<http://www.gsjal.jp/tateoka/>



■ 目標

- ①ピア・リーディングとは…どのような学習活動なのか
- ②なぜ協働なのか ……何をめざして協働するのか
- ③デザイン……協働による学びをどうデザインするか
- ④教師の役割 について考える

■ 流れ

- I. 「ピア・リーディング」および「協働」とは
- II. 事例紹介
- III. 何をめざした協働かー「協働」再考
- IV. 実践を考える
- V. ピア・リーディングのデザインと教師の役割

I 「ピア・リーディング」
および
「協働」とは

本日のキーワード： 協働(きょうどう)

■協働 (collaboration) :

互いに協力して何かをつくりあげる**創造的な活動**を行うこと。

ひとりではなしえなかった**創発**がおきる。(館岡2005)

■ピア・ラーニング (peer learning)

- ・ピア = peer (仲間の学習者)
- ・ラーニング = learning
- ・学習者同士が協働して学ぶ活動

■ピア・リーディング (Peer Reading)

なぜピア・リーディングを考えるようになったか

(背景1) 現場の実践から

従来の読解授業への疑問

(背景2) 読解研究から

個人の読解過程の解明

(背景3) 学問的背景から

学習観・教育観の転換



■ 館岡(2000)の調査

- ・問題解決過程としての読解(読むことを2人で解決)
- ・学習者同士が対等に助け合う協働的活動による読解

調査の結果：

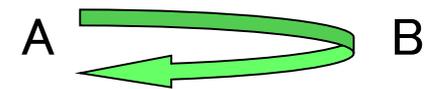
「ピア・リーディング」における他者の意義

(舘岡2005、2007)

① 認知面：リソースとしての他者



対話の相手としての他者



② 情意面：動機付け、不安の軽減、楽しさ

③ 社会面：他者との関係構築

■これらは分けられないもの→理解の「共構築」

雪だるまのように作り上げていくもの

背景:なぜ「協働」なのか

1. 社会の要請

グローバル化社会

知識の高度化

現象の複雑化

価値の多様化

★問題の解決が困難



必要なのは:**異なった者たち**が協力して新しい
ものを生み出すこと **協働力**

2. 学習研究の成果

■ 学びの協働性—誰かといっしょに学ぶ

ヴィゴツキー-VygotskyのZPD

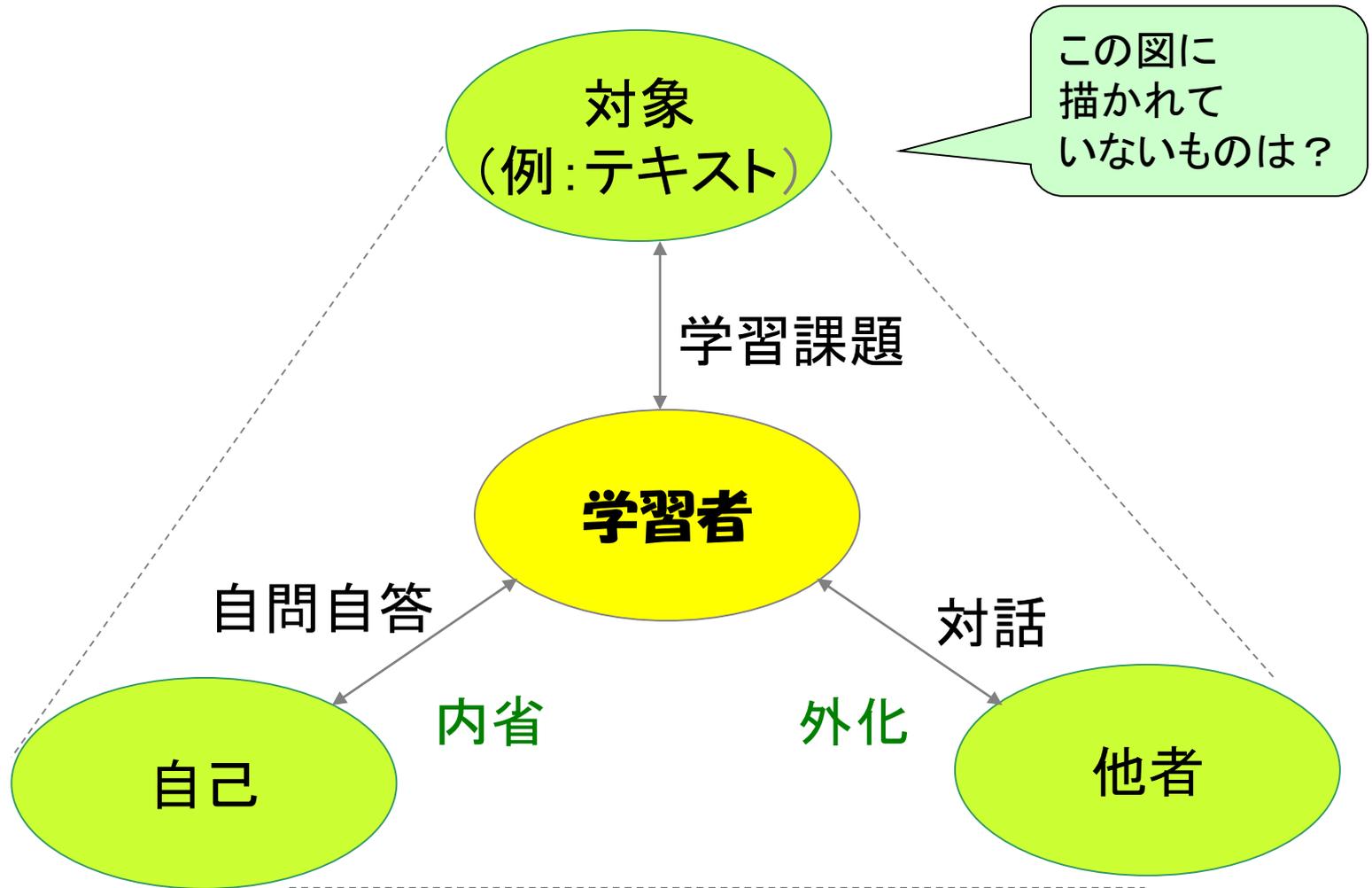
Zone of Proximal Development

■ 社会的実践への参加としての学び

レイヴ&ウェンガー-Lave & Wenger のLPP

Legitimate Peripheral Participation

ピア・ラーニングが提供する学びの場



Ⅱ 実践事例紹介

Critical reading

■CRの目的

テキスト理解についての仲間との対話を通して
思考の進化・深化をめざす

(テキスト理解＋他者理解＋自己理解)

■授業展開

- 1) 理解する
- 2) 自分の問題として考える
- 3) 表現する

「クリティカル」の
意味

事例検討

■テキスト:「境目」(川上弘美)

■やりとりを通してことばを学ぶことを体験する

■流れ: 中級クラスで3回(90分×3)で実践

1) **理解する**: 筆者の考えを知る

2) **自分の問題として考える**: 自分ならどうするか

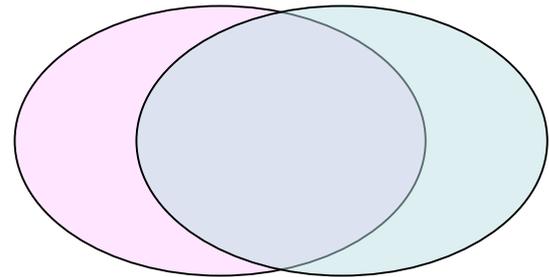
3) **表現する**

■めざしたこと:

上記を通して、自分と他者との
「異なり」と「重なり」に気づく

↓ズレから

テキスト理解・他者理解・自己理解を深める



実践事例(館岡2011)から

<http://hdl.handle.net/2065/31743>

1) 辞書のことばを乗り越える

「境目」=borderlineでしかなかったことば

→自分にとっての意味あることば

2) 人と人の中にことばは生まれる

ひとり一人の独立の考えがあって意見交換をする
のではなく、やりとりの中で考えが生まれる

3) 対話の中で自分を位置づける

教室で各自が他者を通して、自分自身を社会的、
歴史的に位置づける(学びの場の三角形参照)

Ⅲ 何をめざした協働か —「協働」再考—

協働(きょうどう)への違和感

■協働(collaboration):

互いに協力して何かをつくりあげる**創造的な活動**を行うこと。

ひとりではなしえなかった**創発**がおきる。(舘岡2005)

■「協働」で一括りに語られる中身はいろいろ **グループで行う活動**はすべて「協働」?

■いろいろな実践から

- ・練習問題をグループごとに解く
- ・ゲーム式にグループ間で競う(正解したら加点)
- ・余った時間のお楽しみゲーム

朱桂栄(2016)より

協働学習（互助型と創造型）

互助型協働学習

正解を得るために、
または早く正しく課題を
完成させるために、
互いに情報を提供し、
助け合う学習

正解あり

創造型協働学習

正解のない
課題に対し、
互いに意見や
考えを述べ合い
新しい認識を得、
創造性のある
結論を導く学習

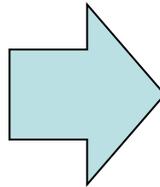
正解なし

池田・舘岡・朱・林(2014)より朱(2016)

協働学習(互助型と創造型)

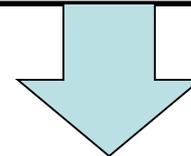
互助型協働学習

正解を得るために、
または早く正しく課題を
完成させるために、
互いに情報を提供し、
助け合う学習



創造型協働学習

正解のない課題に対し、
互いに意見や考えを
述べ合い
新しい認識を得、
創造性のある結論を導く学習

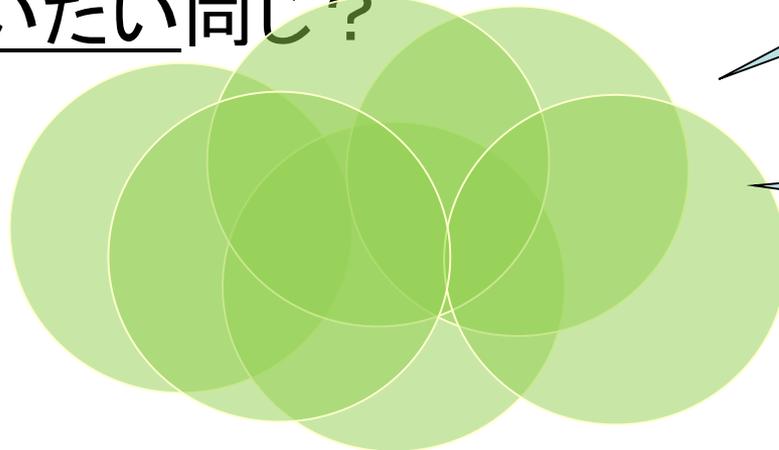


- ・答えはひとつではない
- ・いろいろあるね
- ・みんな違ってみんないい?

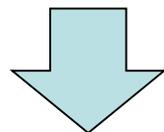
創造型＝わたしはわたし、あなたはあなた
みんな違ってみんないい？
だいたい同じ？

深い学びは
あるか

異りから
新たなものを
生み出せるか



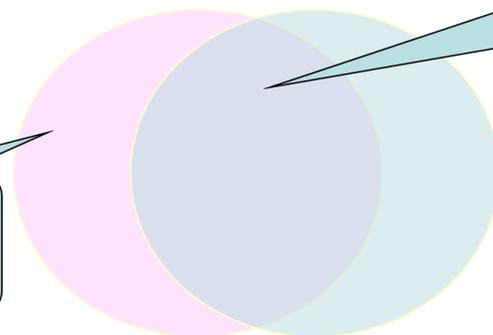
Cf. アクティブ・ラーニング
への批判(松下ほか2015)



- ・可視化する
- ・どこが重なっていてどこが異なっているか
丁寧にすり合わせる

重なりがないと
異なりがわからない

異なり＝ズレ
から学ぶ



IV 実践を考える



初中級の授業をデザインする

『たのしい読みもの55』より

1. 「ピア・リーディング」をデザインしてみましょう

【グループ】4つのテキストの中から1つ選び、以下の点を考えながら、授業をデザインしてください。

- ①何をめざしているか、なぜ協働するのか
- ②どこに異なりと重なりがありそうか、どう可視化するか

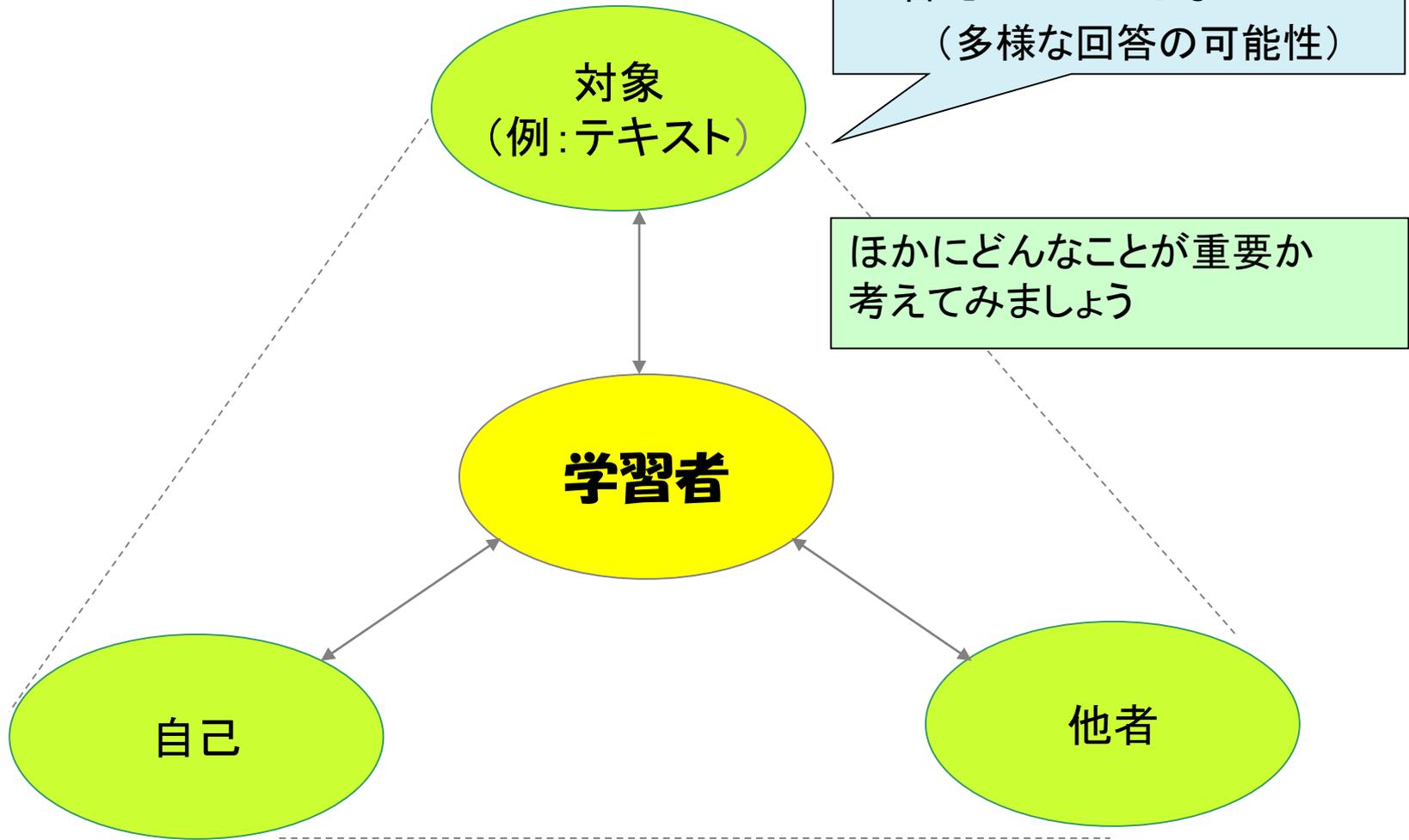
【全体共有】→【振り返り】

2. デザインのチェックポイントを考えてみましょう

【グループ】→【全体共有】→【振り返り】

V ピア・リーディングのデザインと 教師の役割

授業デザインのチェックポイント



参考文献

- 池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門』ひつじ書房
- 池田玲子・館岡洋子・朱桂栄・林洪(2014)『日语协作学习理论与教学实践』高等教育出版社
(日本語教育基礎理論と実践シリーズ『日本語教育の協働学習理論と実践』)
- 朱桂栄(2016)「北京での協働実践からの学び」パネルセッション『協働の学びを捉え直す』
日本語教育国際研究大会パネル発表予稿集
- 館岡洋子(2000)「読解過程における学習者間の相互作用—ピア・リーディングの可能性をめぐる」
『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター-紀要』23, 25-50
- 館岡洋子(2001)「読解過程における自問自答と問題解決方略」『日本語教育』111号, 66-75
- 館岡洋子(2005)『ひとりで読むことからピア・リーディングへ—日本語学習者の読解過程と対話的
協働学習—』東海大学出版会
- 館岡洋子(2010)「多様な価値づけのせめぎあいの場としての教室—授業のあり方を語り合う授
業と教師の実践研究」『早稲田日本語教育学』7号、1-24
<http://hdl.handle.net/2065/29807>
- 館岡洋子(2011)「協働による学びがはぐくむことばの力—教室で読むということをめぐる」『早
稲田日本語教育学』9号、41-49 <http://hdl.handle.net/2065/31743>
- 館岡洋子(2012)「テキストを媒介とした学習コミュニティの生成—二重の対話の場としての教室」
『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号、57-70
<http://hdl.handle.net/2065/34125>
- 館岡洋子(2015)『協働で学ぶクリティカル・リーディング』ひつじ書房
- 平高史也・館岡洋子(2012)『読解教材を作る』スリーエーネットワーク
- 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編(2015)『ディープ・アクティブラーニング—
大学授業を深化させるために—』勁草書房

協働実践研究会 会員募集中！

入会無料 世界各地で研究会開催
次回 2017年12月2日@早稲田大学

<http://kyodo-jissen-kenkyukai.com/>
フェイスブックもやっています

館岡洋子 <http://www.gsjal.jp/tateoka/>

ありがと
うござい
ました

